

# 日本共産党議員団、国宝太刀購入について明確に反対を表明 他会派は「市民の宝として戻るビッグチャンス」などと賛成

3月定例議会は24日、一般会計予算など80の議案や諮問などを採決して閉会しました。

議案についての討論は午後からでした。テレビカメラが3台動く中での討論となりました。議会5会派の代表5人が登壇し、討論を行いました。注目は3億2000万円にもなる国宝の太刀購入費についてどう見解を表明するかでした。

日本共産党議員団からは平良木議員が討論に参加し、「市民生活が厳しくなっている中で、これだけ高額な支出を、市民負担の軽減や行政サービスの充実よりも優先してはならない」などのべました。しかし、反対の見解をのべたのは私たちだけで、他会派代表



討論する日本共産党議員団の平良木哲也議員

は、「上越市の歴史と文化を証明するもの」「市民の宝として戻るビッグチャンス」などと評価しました。この購入費用が入った予算は、新年度一般会計予算です。残念ながら、反対は日本共産党議員団のみでした。

## 全議案の9割に賛成

日本共産党議員団は、提案された80議案のうち、72議案に賛成し、8議案については市民生活を守る立場から反対しました。

反対した8議案のうち、新年度一般会計予算に関する討論概要を紹介します。

今回の予算は、いくつもの箱物の建設予算が計上されていることに加え、高額な国宝を購入するという予算です。

市民にとって、年々収入は減る一方、負担は増える一方という中、必要なのは国宝を買うことではなく負担を軽くすること、暮らし、福祉や医療、介護、教育などのサービスを充実させることです。

地域経済の活性化に資する住宅リフォーム助成事業の継続や子育て世代の負担軽減を図る保育料の5%引き下げは、積極策です。一方、国の悪政から市民の暮らしを守るべき基礎自治体の責務を

考えると、看過できない問題が山積しています。

まず、3億2000万円というきわめて高額な国宝の刀剣の購入事業は問題です。

この刀剣にはそれなりの価値もあり、また毎年一定の文化予算を計上することも重要な施策の一つです。

しかし、市民生活が厳しくなっている中で、これだけ高額な支出を、市民負担の軽減や行政サービスの充実よりも優先してはなりません。まず、各種の利用料や保険料の引き下げ、助成制度の拡充などで市民の暮らしをあたため、だれもが安心して暮らせる町にすることが、今求められている最大の行政課題です。

学校給食調理業務の民間委託は合計39校にまで増加しました。学校給食は食育等教育の重要な一環であり、安心安全な給食提供の点からも市の直営とし、民間委託はすべきではあ



【サンシュユ】ミズキ科の落葉小高木。漢字で「山茱萸」と書きます。3月の半ば過ぎから黄色の花を木にいっぱい咲かせています。この木の実だと思おうのですが、薬になるとか。26日、吉川区代石にて撮影。



吉川小学校の池田隆校長先生が卒業する6年生に贈った絵はがきの原画です。カラーの絵は私のブログ、ホームページをご覧ください。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1801 2017.4.2**  
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
 Tel 025-548-3628  
 通じないときは 090-5392-1961  
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら  


# 春よ来い

## 第四四九回

### 亡き伯母の家に

年寄りなんだから、雪が降って積もっているんだから、怪我をしていたんだから。そう言えば、確かにそうです。母が大島区板山の伯母の家にいけないのはやむを得ないことだったのかも知れません。

大勢いたキョウダイが次々と亡くなり、姉と妹の二人だけが生きているという状態がけっこう長く続いていましたので、伯母が亡くなってから日がどんどん過ぎて行くことが私には気になっていました。

母には早く伯母の位牌に手を合わせる機会をつくってやりたい、そう思いつつも、なかなか実現できませんでした。まもなく二か月になるうかというときになって、やっとその機会をつくれる日がやってきました。

二月の半ばのことです。留守では困ると思ひ、出かける前に従弟（いとこ）のところに携帯で電話をすると、従弟は「おっかさはいないけど、じゃ、おれ、いるようにするこて」と言ってくれました。私は母を軽自動車に乗せて、朔日峠を越える浦川原ルートで板山へ行きました。

従弟の家に着くと、家の東側からぐるりと回って玄関に行く道は雪に埋まっています。正直言って、「こりや、困ったな」と思いました。平らな道がだめとなれば、急な坂道、といっても、ほんの五メートルくらいなのですが、そこから行くしかありません。母の手を引きながら、坂を上って玄関に入りました。

亡くなった伯母の位牌は、居間の仏壇の中にあります。母は仏壇の前に行くとき、ちよこんと座って、お輪（りん）を三回鳴らしてから、手を合わせました。そして、遺影をゆつくりながめるでもなく、すぐにコタツに足を入れました。寒かったのかも知れません。

居間には隅っこの方に伯母が写った写真が何枚かかざってあります。母は伯母の遺影よりも、これらの写真の方が気になったようです。

最初に母の目にとまったものは、一〇人ほどの集合写真です。伯母が真ん中にいて、そのそばには長男のMさんがいます。後ろの方には孫夫婦などがずらりと並んでいました。Mさんの写真を見て、「あ、りや、シユウジさんか」と母が訊いてきたので、「違うよ、シユウジさんのキョウダイだよ」と答えました。少ない髪の毛、顔立ち、二人はたしかに似ています。それにしても、写真を手元で見るとわけでもないのに、よく見えるものだと感心しました。

「まあ、こりや、いい写真だ」母がそう言ったのは、伯母が百歳の祝いをしてもらったときのものでした。花を手にした伯母を中心にして両脇に従弟夫婦、伯母の後ろには二人の従姉（いとこ）が写っています。伯母はイスに沈み込むように座り、従姉たちは表彰状を手に持ってニコニコしています。おそらく、母はこの笑顔が目に入ったのでしよう。

亡き伯母の家は母が何度も訪ねてきた思い出の場所です。生前の伯母の姿を写真で確認したものの、母の表情はいま一つぱつとしませんでした。伯母とはもう話ができなくなってしまうた、そのさみしさが感じられる母の姿でした。

帰り際、うれしいことがありました。玄関先からの坂道を下るときでした。私が母の片方の手を持って歩き始めたとき、従弟も「ころんじやダメだよ」そう言って、母のもう片方の手を持ってくれたのです。やはり親子ですねえ、亡くなった伯母もこの坂道のところまで、母に「ころぶなや」と声をかけてくれていました。

## 市立旭保育園、吉川中央保育園で卒園式・閉園式

私立吉川保育園を含め、市立旭保育園、吉川中央保育園の3園を統合した「よしかわ保育園」が4月からスタートすることに伴い、このほど、私立吉川保育園では卒園式、園舎お別れ式が、市立2園では卒園式、閉園

式が行われました。私はこのうち、市立2園の式典に参加してきました。まず、市立旭保育園。園児、保護者を中心に50人ほどが集まりました。最後の卒園式で巣立ったのは11人です。市長から「保育証書」をもらい、園長先生と握手した後、保護者とも握手し、抱かれたり、頭をなでられたりしていました。とても素敵な光景でした。それにしても子どもたちの暗記力はすごいですね。思い出に残ったことなど、卒園児が元気に語る言葉は完ぺきでした。

吉川中央保育園では、旭保育園の11人よりも少ない4人の「ゆり組」さんが卒園です。園長先生が挨拶の中で卒園児の一人ひとりに声をかけ、「〇〇さん、運動会がんばりましたね」といった調子で語りかけたときの園児たちのうれしそうな表情が印象的でした。卒園式でも閉園式でも思い出のスライド上映



行われました。

2園の閉園式では、「子どもたちは働きもんでした。おもちゃのバケツを手に石拾いや草取りをしてくれました」などといった旧職員の声も紹介されました。参加者にとっては思い出となる閉園式になりました。

新よしかわ保育園は4月8日にスタートします。

## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

|        | 3月22日(水) | 3月29日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.040    | 0.040    |
| 上越北消防署 | 0.050    | 0.053    |
| 新井消防署  | 0.047    | 0.050    |
| 頸北消防署  | 0.043    | 0.043    |
| 頸南消防署  | 0.053    | 0.060    |
| 東頸消防署  | 0.060    | 0.047    |
| 高士分遣所  | 0.060    | 0.060    |
| 名立分遣所  | 0.050    | 0.057    |